

## 日本超音波医学会

中谷 敏\*

### I. 日本超音波医学会とは

日本超音波医学会(日超医)は「超音波の医学的・生物学的応用に関する学術研究と、これに関する知識の交流を行い学術の興隆と福祉の向上に寄与すること」を目的として昭和36年に発足した「超音波医学研究会」をその母体とする歴史のある学会です。昭和62年からは社団法人日本超音波医学会となり、また同年日本医学会への加盟も認可されています。会員数も本年3月時点で約13,500名を数えこの分野では国内最大の学会となっています。

現在の日超医の設立目的は、定款によれば「超音波医学に関する学理及び応用の研究についての発表、知識の交換、情報の提供等を行うことにより、超音波医学及びその関連学問領域の進歩普及を図り、もって我が国における学術の発展に寄与すること」です。この目的からもうかがえるように日超医の会員は医学領域にとどまらず、工学の研究者も多数おられ、このことが他の学会にないユニークな特徴となっています。また超音波医学ということばでひとくくりにしていることからわかるように、体表臓器、循環器、消化器、泌尿器、産婦人科、健診、血管とすべての領域を網羅していることも特徴のひとつです。

学会活動としては、全体的な学術集会(年1回)を開催するのみならず、北海道、東北、関東甲信越、中部、関西、中国、四国、九州の各地

で地方会(年1~2回)を開催して、超音波検査に携わる人々の裾野を広げるべく努力しています。また和文機関誌および英文機関誌の定期的発行や学会認定医(超音波専門医、超音波指導医)、超音波工学フェロー、学会認定検査士、超音波研修施設の認定も行っています。

### II. 学会認定資格

日超医は全国で約400施設の超音波研修施設を認定しています。これらはいずれも超音波検査を研修するのに適した環境であるという、いわばお墨付きを得た施設であり後述の認定医、認定検査士の育成に役立っています。

超音波専門医は筆記試験のみならず臨床実績や学術業績も考慮して厳しく審査される超音波医学の認定医です。さらにその上に認定医や認定検査士を指導する資格のある超音波指導医があります。超音波認定検査士は、「超音波検査の優れた技能を有するコメディカルスタッフを専門の検査士として認定し、超音波医学並びに医療の向上を図り、もって国民の福祉に貢献することを目的とする」資格であり、超音波検査150例以上の経験を有し、超音波専門医によって推薦された看護師・准看護師・臨床検査技師・診療放射線技師が、臨床実績と筆記試験の成績により認定されます。この資格は超音波検査技師にとって現時点で唯一の資格であり、それだけに多くの技師達が一種のあこがれとともに目指す資格となっています。

\*大阪大学大学院 医学系研究科保健学専攻機能診断科学講座 nakatani@sahs.med.osaka-u.ac.jp

超音波工学フェローは、「超音波あるいはそれに関連する基礎及び応用についての理工学の学識と経験が高度の専門レベルに達した理工学研究者に付与され、これらの領域と関連する超音波医学の研究に大きく貢献し、その功績が顕著であることを学会が認定した会員」であり医学・工学が密接にリンクした日超医ならではの独特の資格です。

日超医に興味を持たれた方は是非 <http://www.jsum.or.jp/> にアクセスしてみてください。上に書いたこと以外にいろいろな情報を知ることができるでしょう。

### III. 日本超音波医学会第 81 回学術集会

さて、この日超医の平成 20 年度年次集会が平成 20 年 5 月 23 日から 25 日まで、大阪大学医学部保健学科の別府慎太郎名誉教授を会長として神戸国際展示場で行われました(図 1)。

今大会のメインテーマは「医学と医療における超音波」というもので、日常臨床のみならずいろいろな分野において超音波がいかに役立っているかを知ることのできるテーマでした。日超医は循環器や消化器のみならず体表臓器、泌尿器、産婦人科、健診、血管といろいろな領域の先生方が一同に会します。そこで領域横断的テーマとしては「成長と老化」「弾性の考え方」「最新の超音波事情」「超音波による治療」「超音

波検査と安全対策」等 8 つを、また特別講演としては共通テーマとして「音はこんなに面白い」として「超音波メガネなど「音の福祉工学」の最前線」(東京大学先端科学技術研究センター、伊福部 達先生)、「超音波エレクトロニクスの将来展望」(同志社大学工学部、渡辺好章先生)、「海洋音響学からの医学へのメッセージ」(神奈川大学工学部、遠藤 信先生)、「音波による超浅層地中映像化技術—遺跡探査と地雷探査への応用」(桐蔭横浜大学工学部、杉本恒美先生)、「海洋超音波、空中超音波—超音波による計測技術」(東京工業大学大学院、蜂屋弘之先生)が講演されました。どうです? テーマを見ただけでも超音波のいろいろな可能性が感じられてわくわくしませんか? また別府先生の会長講演は「私を愛した超音波」というタイトルで研修医の時代から現在に至るまでの御自身と超音波との関わりを、そのときどきの発見とともにお話いただきました。このタイトルはもちろん映画 007 シリーズ「私を愛したスパイ」のもじりですが、文字通り超音波への愛情が感じられた印象深い講演でした。

超音波検査は診断機器がなければ始まりません。学会においても企業の協力が必須不可欠となります。今大会ではランチョンセッションやイブニングセミナー以外に、企業参加のセッションが「企業は魅せます」というタイトルの下に「ライブ・バーチャルライブ」、「臨床に使える新たな技術」、「我が社のここを見てください」という 3 つにまとめられ展示会場の一面において実施されました。いずれも非常に面白く、ことに「ライブ・バーチャルライブ」は各領域の先生方の熱演もあって大変な盛り上がりを見せていました(図 2)。ところで学会では気の張らない場所での自由な意見交換も重要です。平たく言えば懇親会です。大会 2 日目夜には立食形式でのパーティが催されました。広い会場であったにもかかわらずたくさんの人々が集い、あちこちで意見交換を行っておられました(学問的意見交換かどうかは定かではありませんが)。余興では社会人チャリダーが出演され、迫力の



図1 別府大会長の講演



図2 ライブ・バーチャルライブ会場



図3 懇親会でのチアリーダーの演技

ある演技に皆拍手喝采でした(図3)。

最終日には市民公開講座が開かれました。「乳ガン検診と超音波」、「超音波と遊ぼう」、「ママと赤ちゃん、そしてパパのための超音波セミナー」といった一般の方々になじみの深い内容でした。落語家の協力を得たり、また「超音波と遊ぼう」では会場からの子供たちの飛び入り参加もあって盛り上がりました。医学は一般の方から決して遊離するものではありません。超音波医学はその非侵襲性からとりわけ一般の方に身近に感じて頂きたい検査です。この意味からもこの市民公開講座は大変意義深いものと思われました。

#### IV. 日本超音波学会入会のすすめ

私は、超音波検査は自ら考えて自ら手を動かして情報を収集することが要求されるという点であらゆる検査の中でも特に面白い検査だと思っています。その検査に習熟し信頼される情報を提供するためには超音波検査に携わる方はこれからも生涯にわたって自己研鑽が必要です。その機会を提供してくれるのが学会です。日本超音波医学会は認定専門医、認定検査士の制度や、生涯教育システムが充実しています。もしもあなたがまだ入会されていないなら、一度ホームページを覗いてみてください。